

♥♥文庫あれこれ♥♥

◆花粉と黄砂で鼻も目も喉もやられ、面倒くさがり屋の私も遂にマスク。◆きのう、ウグイスが鳴いていたようでしたが、文庫の庭は春の芽吹きはまだ?◆雨はあがったけれど、空はすっきり晴れぬままに日が暮れました。あしたは晴れるといいな。◆文庫のお隣りさんが引越して見えました。そして、早速ご主人が会員になってくださいました。◆ここに来ると新聞もテレビも無縁になってしまうのですが、今日のWBCはどうなったのでしょうか?Mさんのご主人は、日本が勝って、ご機嫌よくお出かけになれたのでしょうか?◆蔵書の入力整理も順調です。Nさんに背中を押していただき。◆Sさんがどなたかのパソコン台をリメイクしてくださいました。使い勝手がとてもよいです。ありがとうございました。◆パソコン台をおいたので、開かなくなった引出しの中のものをついでに整理しました。東京の私の部屋は、捨てられないもので、溢れかえっていますが、文庫はそうならないように、時々、片付けないと!◆『面倒くさがりやのあなたがうまくいく55の法』という本を買ったのですが、まだ読んでいません。◆明日の夕方は、伊豆高原のわらべ絵館(喜田川昌之館長)で、おはなしとフルーツの会があります。とても素敵な美術館で、開館5周年だそうです。私もおはなしさせていただきますが、東京からお呼びしたお二人は、喜寿に近いお年ですが、おはなしが、お口から自然に溢れ出てくるような方達です。文庫では、日曜日の朝の子どものおはなし会にも語ったり、遊んだりしていただきます。大人の方もご都合つけば是非おいでください。◆学校や、幼稚園、保育園で、卒業式が終わって、進学シーズンも間近。私の身边も夫さんの定年、短期の頼まれ単身赴任、娘夫婦の海外転勤など、春はもう、すぐです。Mさんの腰痛も早くなるといいですね。◆追伸。3月21日(土)。快晴!朝から母屋を掃除して、洗濯して、気分爽快!水分をすった木や草花は、心なしか、しゃっきり、緑も濃くなったようです。ふと見ると新しい植樹が。おおでまり、とあります。チューリップもバラの咲くのも間もなくかな、お世話してくださるFさん感謝。沙羅の樹文庫は今日もみなさんに支えられて開館します。(西村)

“ “ これからの催し物のお知らせ ” ”

春よこい・スペシャル

## 子ども おとなも おはなし会

日時 3月22日(日)午前10:30~11:30

おはなしのベテランおばあちゃんおふたり来館

## 5月アートフェスティバル

開館 5月10日(日)~17日(日)

時間 午前10時~午後3時(土曜日は通常通り)

絵本ミニ原画展 子どもの本テーマ展  
図書館を使った調べる学習賞コンクール優秀作品展  
(期間中)

&

## 若葉のころのおはなし会(大きい人に)

5月16日(土) 午後4時から5時半ころまで

(森の動物がお店やさんを開きます。ほっこり、しみり。一冊まるごと、短いおはなしで綴るふしぎな世界を楽しんでください。語り手は文庫の会員です。それぞれの個性で選んだおはなしを聴いてください)

## 子どものための春のおはなし会

5月17日(日)午前10時30分~11時30分

おはなし、手遊び、紙芝居、いろいろあります。

☆☆2009 年前半の開館スケジュール☆☆

◆4月も変則第4土日(25、26日)です。

◆5月は上記を参照ください。

※毎月開館日の日曜は、「子どものための小さなおはなし会」があります。午前10:30~11:00

※文庫の時間:通常、土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

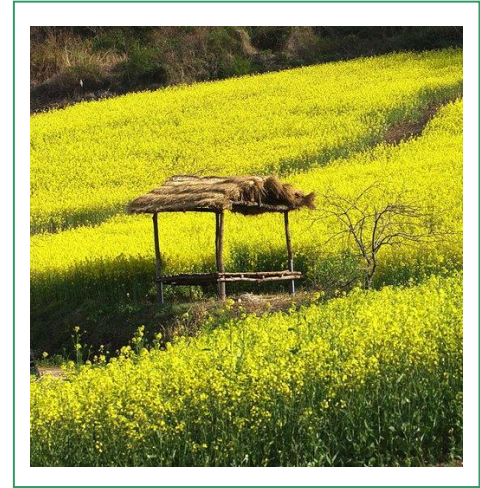
♥文庫開館日は通常、毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です。

おはなしの勉強会は、

4月25日、5月9日(土)11:00~です。

# 沙羅の樹文庫だより

10.01 (2009年5月号)



(濟州島の菜の花畑)

昨年秋、濟州島はコスモスの島でしたが…。

菜の花 菜の花 ちょうちょうになあれ  
ちょうちょう ちょうちょう  
菜の花になあれ

(まどみちお作)

菜の花の黄色、そして さくらのうすべに色、  
心が浮立つような、ざわつくような 春。

咲きさかる さくら一樹に 覆はれて  
誰そかくれ棲む 屋根みゆ  
(沢桃子 「歌集 水仙月」より)

世情落ち着かず、不況に家計も切り詰め、何かと不自由を困っていても(少し大げさ?)、春は訪れます。野山を歩いて、読書して、元気で過ごしましょう。

今年の新しい1年生はだれかな

## 紹介大人の本・子どもの本文庫にある本

### 『フングくん』(国松エリカ作 小学館)を読んで

わたしの弟の名前は「いとうふうが」です。この本のタイトルが「フング」くんで、弟の名前とよくにているので、きょうみがあってえらびました。

フングくんは、きかんぼうの小ブタで、バスでようち園に通っています。この本には「じてん車のまき」「せんとうのまき」「そうじきのまき」「ふとんをほすのまき」の四つがのっていますが、すべてのまきで、お母さんとはぐれてしまいます。そしてフングくんは、あっちこっち、お母さんをさがして、さい後には、見つけます。

わたしは、とくに「ふとんをほすのまき」が好きです。なぜなら、わたしもフングくんと同じで、お天気のいい日には、おそくまでおふとんの中でねていたから、フングくんの気もちがよくわかるのです。でも、お母さんは早くおふとんをしまいたいんだろうな、とも思います。 いとう楓音(八幡野小2年生)

✧楓音ちゃんの弟のふうちゃんも幼稚園に通ってますね。元気なところはフングくんに似てるけど、ふうちゃんはきかんぼうじゃあないわね!楓音ちゃん、おかあさんの気持ち思いやることのできるのですね、感心しました。そんなところもしっかり書けましたね! ✧

### 「トゥイーの日記」(ダン・トゥイー・チャム著 高橋和泉訳 経済界・08.8刊)

20代半ばを北から志願して南ベトナムの戦場で軍医として過ごした女性の2年間にわたる日記です。家族や仲間への愛、恋に揺れる気持ち、そうした若い女性の日常の中に、すさまじい戦場の有り様が綴られています。「銃弾が腹部を貫通して亡くなる同志」「敵が

撒き散らす爆弾の一斉攻撃で昨日も5人の仲間が死んだ」「今日も明日も誰かが死ぬ」「家の前にいた少女の腹を撃ちぬいた」「昨日も21歳の青年が満身創痍で運ばれてきた」そんな事実が続く中で仕事をしているのです。この本の中味は35年前のことだとは思いますが、今も世界のあちこちで同じようなことが起きていることに心が痛みます。

この日記は彼女の死の二日前まで書かれており、それを手にしたアメリカ兵が、軍規を犯していつか家族の元に返したいと焼却処分から守りました。彼は軍の情報部に所属し、収集した資料を調査し軍事的価値のないものは処分するのが任務でした。日記の作者はこの戦争を書きおくことが自分の使命として書き、アメリカ兵はその意思を十分に感じたからです。35年後に家族の下に帰った日記なんて奇跡のようです。

外科医の父と大学講師の母との間に生まれた5人妹弟の長女。花と書物がいっぱい家で医学を学んだ少女は、将来にたくさんの夢を描いていたに違いない。27歳で撃たれて死んでしまうなんて……。事実としてこの本を受け止めなければならないのがつらいことです。人間は進歩してきたはずなのに、いつになったら世界中から戦争がなくなるのでしょうか。

戦争はなぜいけないのだろう。そのことを誰にでも分かるように書いてくれたかなと思って、リクエストしたのが、アリス・ウォーカー(長田弘訳)の「なぜ戦争はよくないか」(偕成社・08.12刊)です。アリス・ウォーカーは「カラー・パープル」でピューリッツァー賞を受けたアメリカの女性作家で、強く生きる黒人女性を書いて人種差別を問いかけた人として知っていたので、大好きな長田弘の訳ではあるし、とおもったのです。池のそばのカエルたちや、ロバと男の子、若い母親とミルクをのむ赤ちゃん、インコやピューマや

ヘビのいる大きな森、そうした平和な日常に、姿を巧みに隠して忍び込んでくるのが戦争なのだ。その恐ろしさを伝えたいのだ。とその思いを語っていますが、もうひとつ私にはわかりにくいものがありました。ステファーン・ヴィタルの絵はとても味わいがあっていいです。(中西景子)

### 新刊・新入庫のご紹介

#### 《児童書》

低学年向き『ゼルダとアイビー』(ローラ・マギー・クヴァスナースキー作 BL 出版)『先生と老犬とぼく』(レイス・サッカー作 文研出版)

#### 高学年～大人向き

『ムーンレディの記憶』(カニグスバーク作 岩波書店)『縞模様のパジャマの少年』(ジョン・ポイン作 岩波書店)『ドリーム・ギバー』(ロイズ・ローリー7作 金の星社)『殺人者の涙』(アン＝ロール・ボンドウ作 小峰書店)  
※中学生になったあの子とあの子に読んでもらいたいけど、みんな部活で忙しい?

#### 《一般書》

#### 単行本

『三匹のおっさん』(有川浩著 文藝春秋)『秋月記』(葉室麟著 角川書店)『どうせ、あちらへは手ぶらで行く』(城山三郎著 新潮社)『しずかの朝』(小澤征良著 新潮社)『沖繩 だれにも書かれなかった戦後史』(佐野眞一著 集英社)『かみかみ日記』(窪島誠一郎著 平凡社)『ロスチャイルド家と最高のワイン』(ヨアヒム・クルツ著 日本経済新聞出版社)『自由訳 十牛図』(新井満著 四季社)

#### 新書

『逝きし世の面影』(渡辺京二著 平凡社)『断る力』(勝間和代著 文藝春秋)

#### 文庫

『お腹召しませ』(浅田次郎著 中央公論新社)『湘南』(城山三郎著 文芸春秋)『蛇を踏む』(川上弘美著 文芸春秋)『海』(小川洋子著 新潮社)『オリガ・モリソヴナの反語法』(米原万理著 集英社)『湯ぶねに落ちた猫』(吉行理恵著 筑摩書房)